

労働安全衛生の推進

「安全衛生」とは、従業員が安全で健康的な環境で働くことを確保するための取り組みであり、企業の持続可能な成長を支える基盤であり、企業経営において優先すべきマテリアリティです。化学メーカーでは、取り扱う化学物質や作業環境において、より高いレベルの安全衛生管理が求められます(レスポンシブル・ケア)。事業所では、安全衛生委員会が中心となり従業員の安全衛生への

関心を高めるとともに、従業員の意見を反映し、災害防止対策ならびに健康の保持増進活動を推進します。当社では日本化学工業協会の労働安全衛生部会や化学防護手袋研究会への参加、労働安全コンサルタントとの契約、大学教授との共同研究など、社外の団体・有識者とのつながりをもった活動と各事業所のサポートをします。社内外の協力のもと、全社的な安全衛生活動を推進します。

労働災害の再発を抑制する取り組み

発生した労働災害について、発生状況や根本原因を解析し、再発防止対策を立案・実施しています。また、災害発生状況や改善点などを報告書に取りまとめて管理しています。報告書は、社内グループウェアを利用して各事業所と共有することで、類似災害の再発防止に役立てています。

労働災害発生件数(新規)

年度	通勤災害	業務災害	全体	内休業災害
2021	5	5	10	0
2022	4	15	19	1
2023	1	6	7	1
2024	7	16	23	8
合計	17	42	59	10

(注) クミアイ化学単体の直接雇用者を対象

経営に与える影響が極めて大きい労働災害・事故は「リスク対策本部」が設置されますが、それ以外の労災・事故は各事業所(部門)で対応していました。2024年3月に静岡工場第4プラントで発生した「排ガスラインの破裂事故(死傷者なし)」において「重大な労災および事故が発生した場合の迅速な業務再開に向けて、当該部門に加え、第三者的立場で、再開の可否を適切に判断・承認するシステムが必要」とのトップマネジメントからの指示を受け、レスポンシブル・ケア推進委員会の中に「事故対策ワーキンググループ」を設置することとしました。同ワーキンググループは部門が主体となる運営事務局・顧客対応・原因調査・再発防止等のチームで構成されます。そして、第三者的立場として、専務執行役員直轄の部門であるサステナビリティ推進部が本社対策チームとして加わります。

第4プラントは事故発生後、生産を停止していましたが、復旧工事および定期修理を完了し富士市消防本部による完成検査を経て、生産を再開しました。再稼働には、外部専門家の助言も得て事故原因解明および適切な安全対策の構築を行い、さらに作業手順書の見直しや作業者の安全教育を徹底しました。

安全衛生に対する新たな取り組み事例

化学合成プロセスにおける爆発火災リスクアセスメントの手法として、HAZOP^{*}を導入しました。導入にあたり外部専門家とサポート契約を結び、2日間の講習・演習を受講しました。現在、破裂事故があった静岡工場の第4プラントから取り組みを開始し、全プラントへの展開を図ることで、工場全体としてさらなる安全性向上に取り組んでいます。



ハイリスクな箇所はHAZOPで検証

^{*} HAZOP(Hazard and Operability Studies): 複雑なプロセスや装置に対する安全性評価手法の一つ